

近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第十九回）

ふるさと かへりみ

## 「古郷を廻望て作らす歌」

飛ぶ鳥の 明日香の里を 置きて去い  
なば 君があたりは 見えずかもあ  
らむ

（一に云ふ、「君があたりを見ずてもあらむ」といふ）

卷一―78 作者 元明天皇 げんめいてんのう

（解説）明日香の里を後にして行ったならば、あなたのいるあたりを目にすることができなくなってしまおうであろうか。

（一に云ふ君のいらっしやるあたりを見ないで過ごすことになるのであろうか―この異文は持統天皇が藤原遷都の折の歌）

①この歌の題詞には「和銅三年（710）庚戌の春二月に、藤 かのえいぬ

原宮より寧楽宮に遷る時に、御輿を長屋の原に停め、古卿 ならのみや うつ みこし ながや とど ふるさと

を廻望て作らす歌」一書には「太上天皇の御製」とある。 かへりみ

②題詞によると女帝・元明天皇（707～715）が和銅三 げんみようてんのう

年（710）平城京に遷都の途次、藤原・平城両京との中間

ながや

地点にあたる長屋の原（奈良盆地の中央に位置する天理市の

ながらまち

あた みこし とど ふるさと

長柄町付近の説があり）辺りで御輿を停めて古卿（藤原・飛

鳥）を振り返ってお作りになった歌となっている。

③但し、この歌の題詞の注にある「一書には（太上天皇の

ぎよせう

御製）といふ」は、ある本では太上天皇（持統天皇讓位後に

称する）の御歌であろうとあるように女帝・持統天皇が明日香・

きよみはらのみや

浄御原宮から藤原京へ遷都（持統八年（694）十二月）した

折に詠んだ歌であろうとのことから、この歌は元明天皇が平城

の地に遷るにあたって古歌から転用したものであろう、このた

め題詞に天皇が詠まれた歌「御製歌」でなく「作らす歌」とあ

るのは、そのためであろう。との説がある。

④この歌で詠まれている「君があたり」は、持統天皇は夫・天

武天皇と我が子・草壁皇子の陵墓りょうぼの地であり、元明天皇に

とっては夫・草壁皇子と我が子・文武天皇の陵墓の地  
であったろう。

（参考文献）伊藤博著・「万葉集釋注」・清原和義著「万葉の歌」等

(写生地)

ながらまち

万葉時代の「長屋原」といわれた今の奈良県天理市長柄町一

かようちよう

帯から東へなだらかな坂道を上がった高台（同市萱生町）

から南に持続・元明天皇が振り返り見たと思われる耳成山、

畝傍山など藤原京周辺の山、遠景に陵墓のある明日香の山々

などの風景を描く。（池田杏花）



